

あぼしまち交流館前の三角公園を隔てた興浜の地に、ひととき大きくそびえる石碑がある。あまりの大きさに、石碑があることすら気が付かず通り過ぎる人もいるほどだ。

この碑は第10代網干町長奥本傳吉の頌徳碑で、昭和3年11月に、網干町によって建立されている。ちなみにこの石碑が立っているのは、旧丸亀藩陣屋内の「冢中町^{かちゅうちやう}」と呼ばれた場所の東北隅にあたる。石碑の表は兵庫県知事長延連の書。碑文は神楽江薫選。碑文については、不二甲一郎氏の調査によると、以下の通りである。

| | |
|-----------------|---|
| 正面 | 奥本傳吉君頌徳碑 |
| 兵庫県知事從四位勲三等長延連書 | |
| 裏面 | 奥本君傳吉此土之豪族也考諱武八郎姐田中氏君以明治三年十二月生資性温醇歆厚有雅量丁季徵為輜重兵現役既清勤豫備從軍又有功欽勲八等賜旭日章四十一年被推為網干町長尔来二十年依然居職澹懷從政於産業於教育於土木咸克得其宜民人安業一鄉翕然茲蒙優賞欽勲七等賜瑞寶章知縣事亦選獎賞以金盃昭和二年十一月病没歲五十八無公無私無不愛惜痛嘆定議為町葬配田中氏無子弟亮一継家 |
| 昭和三年十一月建之 | 昭和三年十一月建之 |
| 東側面 | 昭和三年十一月建之 |
| 網干町 | 昭和三年十一月建之 |

『網干町史』によると、奥本傳吉は、M3年12月新在家の奥本武八郎（新在家戸長や網干町収入役を務めた）の子として生まれている。彼は網干町長に選ばれる以前にも、町会議員として4年。名誉助役としてM34年1月～M36年9月 M40年6月～M41年6月。町長としては、M41年6月～S2年11月に58歳で病没するまでの18年9か月。これは歴代町長の中でも群を抜いた長さである。また、人物紹介欄では「資性寛厚雅量があった。長じて河野通鵬に学び・・・職に在る恒懷、産業、教育、土木、何れも施策宜しきを得・・・」とあり名町長であったと記されている。さらに、永年にわたり婦人会長を務めた水田静枝氏の『網干小学校百周年史』寄稿文によると、「婦人会は大正10年に山内佐太郎先生、奥本傳吉町長他有識者、有志により発足。一歩ずつ文化教育の目的に前進した」とあり、女性の社会進出へも深い関心を寄せていたことがわかる。



『網干町史』より